

未来へつなぐバトン

―まちづくり協議会20周年
次の10年へつなぐ―



①新鮮朝市(日野上)②駅伝競走大会(石見)
③全国ホテル研究会(山上)④オオサンショウ
ウオ全国大会(多里)⑤天体界道ウォーキング
大会(福栄)⑥宝篋印塔慰霊祭(大宮)⑦
あびれ場所女相撲(阿毘縁)

未来へつなぐバトン

平成18年に誕生した7つのまちづくり協議会は、地域の皆さんの力によって20年の歩みを重ねてきました。これまで築いてきた地域のつながりや支え合いを大切にしながら、新たな時代に合った地域づくりへとつなげていきます。その歩みを振り返り、次の10年へつなげていきます。

当時「協議会」を

設立した目的

人口減少や少子高齢化が進む中、地域の暮らしを将来にわたって支えていくため、平成18年に町内7地域それぞれに「まちづくり協議会」が設立されました。これまで公民館活動で育まれてきた人と人とのつながりや学びを土台に、防災や福祉、交流、地域づくりなどを住民の皆さん自らが主体となつて進める新しい仕組みとしてスタートしました。行政と地域が一体となつて未来を考え、行動する「住民主体の地域自治を目指す」ことが、協議会設立の大きな目的でした。

20年の成果

この20年間、7つのまちづくり協議会では、防災活動や見守り、地域行事、世代間交流など、それぞれの地域に合った取組が続けられてきました。また、大学や企業との連携、地域資源を生かした活動など、新しい地域づくりにも挑戦してきました。令和7年度には、全地域で住民参加による「地域5か年計画」を策定し、多くの皆さんが地域の将来について話し合いました。地域の未来を行政まかせにするのではなく、自分たちで考え、話し合い、決めるという文化が着実に育ってきたことは、この20年間の大きな成果です。

一方で、人口減少や担い手不足など新たな課題も見えてきました。だからこそ、これまで培ってきた地域自治を土台に、次の時代に合った新しい地域づくりへ歩みを進めていくことが求められています。

